

今年新設の「国際交流基金アジアセンター特別賞」 期待のカンボジア女性監督 ソト・クォーリーカー監督に決定！ 初の長編作品『遺されたフィルム』 TIFF2014にてワールド・プレミア

本日10月31日、第27回東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival: 以下、TIFF)におけるアジア新鋭監督の登竜門、「アジアの未来」部門に本年度より新設された「国際交流基金アジアセンター特別賞」の受賞作品が以下の通り発表されました。

■ 「アジアの未来」部門「国際交流基金アジアセンター特別賞」
受賞監督： ソト・クォーリーカー (カンボジア)

■ TIFF出品作品: 『遺されたフィルム』(2014年)

プノンペンの少女が、ふとしたきっかけで1970年代のカンボジア映画と出会い、ポル・ポト派に蹂躪された祖国の映画史を発掘し、新たな形の“再生”を仲間と試みていく。リティ・パニユ『消えた画 クメール・ルージュの真実』で話題のカンボジア映画界から期待の女性監督初の長編映画。



© HANUMAN CO. LTD

クォーリーカー監督は、「カンボジアの人々が自らについて物語ることを勇気づけたいと思った。語ることにより、世代を超えて人と人が繋がり、過去と現在とが繋がる。こうして過去を乗り越えていきたい。」と出品作について語っています。『遺されたフィルム』は、今回の TIFF でワールド・プレミア上映されましたが、本年12月にはカンボジア国際映画祭のオープニングを飾るほか、シンガポール国際映画祭に出品されることも決まっています。

国際交流基金アジアセンター特別賞(The Spirit of Asia Award by The Japan Foundation Asia Center)

「アジアの未来」部門において、文化の違いを越え、国際的な活躍が期待される新鋭監督に贈られます。日本映画大学学長および国際交流基金理事長、2名の委員による審査で決定します。受賞者には、トロフィーとともに、副賞として日本短期滞在(日本人が受賞した場合は、アジア滞在)の機会が贈呈されます。

他の TIFF 各賞の受賞作品につきましては、TIFF のウェブサイトをご覧ください。 <http://2014.tiff-jp.net/ja/>

【国際交流基金アジアセンターとは】 <http://jfac.jp>

国際交流基金アジアセンターは、アジア域内に住む人々の間に、共に生きる隣人としての共感、共生の意識を育んでいくことを目指し、文化事業、知的交流事業、日本語教育事業をはじめとした幅広い分野で、日本とアジア諸国との交流と協働を促進、強化するさまざまな活動を行っています。東南アジア地域を主な対象とする交流事業や調査・研究活動等を支援する助成プログラムも実施しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

【東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival, TIFF)】 <http://2014.tiff-jp.net/ja/>

27回を迎える東京国際映画祭(以下、TIFF)は日本で唯一の国際映画製作者連盟(注1)公認の国際映画祭です。1985年、日本ではじめて大規模な映画の祭典として誕生した TIFF は、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に、世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。

(注1)国際映画製作者連盟:世界の映画産業、国際映画祭の諸問題を改善、検討する国際機関。パリに本部を置き、世界29ヵ国(2014年7月現在)が加盟している。

●本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター 文化事業チーム(担当:村田、熊谷)

Tel: 03-5369-6025 / E-mail: Yuko_Murata@jpf.go.jp、Junichi_Kumagai@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(川久保、麦谷) Tel: 03-5369-6089 / E-mail: press@jpf.go.jp